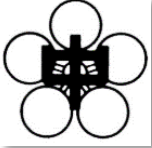


<校訓>白梅の においゆたかに 明るく強く 毎日必ず 一步前進



輝く未来へ

教育目標「自ら学び 創造する生徒」「豊かな心で 思いやりのある生徒」「ねばり強く 健康な生徒」

板橋区立加賀中学校
学校だより
令和元年度 第 22号
令和2年3月19日
校長 水谷 智子

第61回卒業式

今回の卒業式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、卒業生、保護者、教職員のみでの参列となりました。在校生の送辞や卒業生の答辞も式の中で行うことができません。参列できなかった在校生や来賓の皆様方にも、紙上にてご披露させていただきます。

◎校長式辞

温かな春風に誘われて、スタンドの桜の蕾もほころび始めました。

本日、このように、本校第61回卒業式を挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業証書を受け取る皆さんの顔には、中学校三年間、義務教育九年間の学びを得て、立派に成長した自信と誇りが感じられました。皆さんは本校第61期の卒業生として、加賀中学校の歴史に確かな足跡を残してくれました。

皆さんは、男子が多い学年ということもあり、とてもバイタリティにあふれていました。授業中も休み時間も、行事の時も、部活動でも、いつも学校中に、明るく元気な皆さんの声が響いていました。

特に運動会や白梅祭においては、一人ひとりが熱い思いを持って、仲間とともに一生懸命取り組み、その姿は眩しく輝いていました。「後輩たちが超えられない高い壁をつくる」と、限界に挑戦する様は、加賀中生としてのプライドを示すものであり、「自主自律」「自主創造」の伝統のバトンを後輩たちにつなぐものでした。皆さんが、仲間とともに過ごした時間の中で、感じたこと、考えたこと、手に入れたものは、たくさんたくさんあったことでしょう。そして、皆さんは、周りの者たちにも、たくさん感動を与えてくれました。本当にありがとう。

今、世界中が新型コロナウイルスに翻弄されています。感染拡大防止のための臨時休業で、卒業前、共に時間を過ごすことができなかったのは、大変残念なことでした。しかし、皆さんがこれまで培ってきた仲間との絆は深く、気持ちはいつもつながっていたはずです。そう、有志合唱のあの歌のように…

ピンチはチャンス！ 見方を変えれば、今回の出来事は、新しい時代への変革を加速するものかもしれません。『人間万事塞翁が馬』という言葉があります。今回の経験は、皆さんの今後の人生において、大きな学びとなることでしょう。そして、その学びは、皆さんの人間としての幅を広げてくれることでしょう。順境にあって侮らず、逆境にあって焦らず、常に前を向き、一步一步着実に歩みを進めていくことを願っています。どうか、感謝の気持ちを忘れず、人の痛みを感じ取る「豊かな感性」と、冷静に考え行動できる「本物の知性」を持ち続けてください。それが、皆さんの輝く未来へのパスポートです。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。中学校の三年間は、悩みも多く、多感な時期で、心配の種は尽きなかったことと思います。けれども、子どもたちは様々な困難を乗り越え、立派に成長しました。これまでの三年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、心より深く感謝申し上げます。今後は、地域や社会の中で、自立・貢献・共生していく子どもたちを、見守り支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

卒業生の皆さん、加賀中学校は皆さんの母校です。輝く未来に向けて、この加賀中学校で過ごした日々を心の糧にして、力強く、誇り高く、羽ばたいてください。

「白梅の におい豊かに 明るく強く 毎日必ず 一步前進」

皆さんの前途に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。

令和2年3月19日

東京都板橋区立加賀中学校長 水谷 智子

◎送辞

草木もようやく長い眠りから覚め、生命の息吹が感じられる季節となりました。今日このよき日に、加賀中学校での三年間の学びを修了され、新しい世界に旅立とうとしている卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆様は、今どのような気持ちでこの日を迎えられているのでしょうか。振り返ってみると、先輩方との数々の思い出が浮かんでいきます。

運動会では、練習の段階から、皆様が率先して声をかけ、加賀中学校の生徒全員が一丸となって取り組もうとする意識を作って下さいました。三年生の学年種目である「大むかで」では、迫力のある熱い戦いが繰り広げられ、その真剣な姿に、私たちは圧倒されると同時に「団結することの大切さ」を学ぶことができました。白梅祭では、毎日三年生のフロアから、力強い歌声が響いていました。その歌声を聴いて、私たちは鼓舞され、勇気づけられました。課題曲である「大地讃頌」では、各クラスの想いが込められた歌声に、私たちの心は強く揺さぶられました。

また委員会活動や部活動では、委員長や部長をはじめとする先輩方がリーダーシップをとり、活気のある活動をして下さったおかげで、私たち一、二年生は、思い出深い、充実した日々を送ることができました。

このように、何事にも前向きに全力で取り組み、様々な場面で模範を示して下さった皆様は、私たち在校生にとっての確かな道しるべであり、加賀中学校の歴史に新たな伝統を刻んで下さいました。そんな皆様が、加賀中学校から去ってしまうと思うと、悲しさがこみ上げてきます。しかし、悲しんではいられません。これからは私たち二年生が最上級生として加賀中学校の「柱」となり、支えていきます。皆様の背中は、まだまだ遠いですが、その背中を越えられるよう、より一層成長していきたいと思えます。

これからそれぞれの場所で、新たな生活が始まることに、不安を抱かれているかもしれません。そんな時は、これまで加賀中学校で培った、たくさんの知識や経験を、大いに発揮して下さい。また信念を強くもち、ご自身の描く希望に向かって突き進んでいってください。私たち在校生は、皆様一人ひとりのご活躍を心から祈っています。

在校生一同、卒業生の皆様が残して下さった伝統を受け継ぎ、加賀中学校の新たな歴史を作っていくことをお約束いたします。皆様のご健康とご活躍を祈り、送辞とさせていただきます。

令和2年 3月19日

在校生代表 I. K.

◎答辞

冬の寒さが残りつつも、温かな日差しが私たちを照らす、春の訪れを感じる季節となりました。私た

ちの門出を表すかのように、校庭の桜も開花しようとする、この良き日、私たち136名は加賀中学校を卒業します。本日は私たちのために素晴らしい式を開いてくださり、ありがとうございます。

加賀中での生活を充実して過ごせたのは、仲間の存在があったからだと思います。中でも部活動が私達の仲をより深いものにしました。初めは期待に満ちて入部するも、上手く行かずに挫折して先輩の偉大さを実感し、一生懸命部活動に専念しました。時には仲間とぶつかりあったり、小さなことで嫉妬して仲間の存在が遠く感じたりもしました。そんなことがもう無いと思うと寂しいです。成功や勝利を共に喜んだ仲間はかけがえのない宝物です。引退を迎えた日は三年前とは程遠く見違えるほど私達は成長しました。部活は違ってもそれぞれの目標に向かって取り組めたことと思います。また、私たちの絆で学校行事も乗り越えてきました。三年生の運動会は「最後」ということでそれぞれ特別な思いをもって練習に励んだように感じられました。例年より大幅なプログラム変更があり、さらには令和初という重みのかかっていた中でも、後輩が超えられない壁を作ろうと一人一人が真剣に取り組みました。決して簡単なことではないのに無事成功させることができたのは、この青学年全員の絆があったからです。

修学旅行はこの学年で校外学習をする最後の集大成でした。何ヶ月も前から下調べをして、一人一人が自らの役割をもって修学旅行に臨みました。修学旅行では普段は経験できないようなことを経験し、学び、一生残る思い出を作りました。東京ではなかなか感じにくい動物との触れ合い、歴史ある観光名所や伝統的工芸品、様々なことを体感することができました。自分たちの力で京都の中を巡るのは大変でしたが、とても絆が深まったように感じられました。自分たちだけの力でなく、先生方や公共交通機関で働く方々、お店の方々のおかげであるととても感謝しています。また、自分たちの成長を感じ、大人へと着実に進んでいることもわかりました。この修学旅行が、自分たちの大きな経験値となりました。

白梅祭では、学年を通して後輩に大きな壁をつくることを目標に頑張りました。それぞれのクラスで目標を決めて、クラスの自由曲を上手く表現できるように何度も練習しました。三年生にとっては、白梅祭が進路選択の前の最後の行事です。実行委員たちがクラスとして、学年として進むべき道を示し、各クラスで頭を抱え、成功のために何が重要なのかを必死に探し続けました。白梅祭で体育館に鳴り響いた歌声は心の中に残り続けているし、努力したあの日々を忘れることはないでしょう。三年間を通して学年全体の絆の深まる素晴らしい行事になりました。

私たちは、加賀中学校での様々な行事を通じて、大きく成長しました。絆、思いやり、助け合い、多くの学びが私たちにとって、かけがえのない大切な経験です。

また、行事だけではなく、日々の何気ない生活も大切な時間でした。教室は、毎日どこかで、楽しい声が聞こえていました。休み時間には校庭で元気に遊ぶ人、図書室で本を読む人、勉強する人など、様々でしたが、学校のどこにいても、自分の家のように心地よい時間を過ごしていました。しかし、こんなにも当たり前だった加賀中学校での日々は、今日終わります。

新たな年、2020年に入り、私たちの目の前に、大きな壁が立ちました。受験です。学校での勉強に加え、塾に通い、勉強に打ち込む日々が始まりました。しかし、受験勉強は、すべてがうまくいくほど簡単なものではありませんでした。なかなか成績が上がらずに悩んだり、友達が伸びていくのを見て不安になったりする苦悩と孤独の日々の連続でした。それでも私たちには一つの大きな支えがありました。ONE TEAMという言葉です。受験は団体戦だ、という意識を全員がもち、全員でこの受験という壁に立ち向かいました。教室では、友達同士で勉強を教え合う姿がよく見られました。仲間同士で高めあい、成長することのできたこの受験期間は、辛くもありませんでしたが、それ以上に私たちにとって、大きな宝物となりました。この受験で自分たちを支えてくれたのは、学校でいつも親身になって生徒の相談にのってくれた先生、私たちの健康を気遣い、優しく見守ってくれた家族、そして何より、いつもそばにいてくれた仲間たちです。楽しかったこと、嬉しかったこと、苦しかったこと、悲しかったこと、すべてが仲間たちとの大切な思い出です。これから迎える高校生活においても、この素晴らしい仲間たちがワンチームで私たちの心の支えになってくれる、私はそう信じます。

校長先生をはじめとする諸先生方、これまでご指導ありがとうございました。時には厳しく、時には優しく、行事や受験など様々な場面で私たちを支えてくださった先生方は私たちの誇りです。一、二年生のみなさん、本日この場で、この瞬間を共にできないこと本当に残念に思いますが、みなさんのおかげでこれまで私たちは大きな責任感をもって成長することができました。そして何より、お父さん、お母さん。生まれてから今まで変わらず深い愛情と優しさを注いでくださりありがとうございました。ときにはその優しさに素直になれず、ぶつかってしまうこともありました。しかしそれでも辛いとき、苦しいとき、そばにいてくれ、私たちをあたたく見守ってくださいました。私たちが今日この日を無事に迎えることができるのも今まで支えてくださった先生方、後輩のみなさんそして何よりお父さん、お母さんのおかげです。心より感謝申し上げます。

今日をもって、私たちは加賀中学校から卒業します。あんなに高校生に憧れていたのに、いざ直面すると寂しく思います。今後はそれぞれの進んだ道で活躍することでしょう、いつしか壁にぶつかり、悩むこともあるかと思いますが、そんな時は私たち青学年の仲間を思い出してほしいです。どんな壁も私たちは一緒に乗り越えてきました。たとえ道が違ってても絆は繋がったままです。悔いのないよう、素晴らしい高校生活を送ってほしいと思います。

言いたいことはたくさんあるけれど、大好きな学年に言いたい言葉、ふとした時に思い出してほしい言葉があります。「一つとして、一つで完璧なんてものは、無いのかもしれない。だからこそ、補うものが引き寄せられるように生まれ、そばで対を成して、初めて少しでもいい方向に近づけるものだ」

今日のこの日で、私たちは別々の道に歩き出します。しかし、たとえ離れ離れになっても、私たちはONE TEAM。心まで離れることはありません。今日のこの日は別れではありません。みんなが成長した姿で再会するための新しいスタートなのです。私自身もみんなに負けないように努力し、成長した姿でみんなと会えるそのときを楽しみにしています。

この加賀中学校に入学できたこと、一員として学べたこと、そして今、この学び舎を卒業できること、全てに感謝の思いでいっぱいです。

この加賀中学校で出会った素晴らしい仲間たちとの思い出を胸にこれから歩んでいきます。

令和2年3月19日

卒業生代表 T. Y. R. R. S. K. F. M.

おめでとう

■ 体育優良生徒

T.H. S.Y.

■ 白梅賞 (3ヶ年皆勤)

K.Y. J.R. S.R. S.Y.

S.R. T.Y. N.A. A.T.

T.H. E.G. S.Y. N.N.

F.K. M.M. Y.Y. S.A.

S.N. M.T. A.T. I.K.

K.K. N.J. K.I. G.A.

T.H. M.H.



ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんの今後のご活躍とご発展をお祈りします。応援しています！
かがもんより



Kaga junior high school
60th Anniversary